

第 39 回基本政策部会・第 61 回宇宙安全保障部会 議事要旨

1 日 時

令和 6 年 5 月 16 日（木）13:00～15:00

2 場 所

中央合同庁舎第 4 号館 12 階 全省庁共用 1208 特別会議室

3 出席者

(1) 委 員

(基本政策部会)

白坂部会長、常田部会長代理、石田委員、臼田委員、漆間委員、片岡委員、
工藤委員、栗原委員、櫻井委員、篠原委員、中須賀委員、南委員、山崎委員

(宇宙安全保障部会)

鈴木部会長、片岡部会長代理、石井（満）委員、石井（由）委員、遠藤委員、
新谷委員、土屋委員、中須賀委員、名和委員

(2) オブザーバ

宇宙航空研究開発機構（JAXA） 佐藤理事

(3) 事務局

宇宙開発戦略推進事務局

風木局長、渡邊審議官、猪俣参事官、加藤参事官、松本参事官、三上室長

(4) 関係省庁

総務省国際戦略局宇宙通信政策課	扇課長
外務省総合外交政策局宇宙・海洋安全保障政策室	塚田室長
文部科学省研究開発局宇宙開発利用課	竹上企画官
経済産業省製造産業局宇宙産業室	小原補佐
国土交通省総合政策局技術政策課技術開発推進室	神山専門官
環境省地球環境局総務課気候変動観測研究戦略室	岡野室長
防衛省防衛政策局宇宙・海洋政策室	中野屋室長

(5) 説明者

宇宙航空研究開発機構（JAXA）第一宇宙開発部門	小暮統括
国際協力機構（JICA）ガバナンス・平和構築部STI・DX室	高樋室長

4 議事要旨（○：意見等）

事務局から資料 1～資料 2-2、資料 3-1、参考資料 1～3 に基づいて説明、宇宙航空研究開発機構から資料 2-3 に基づいて説明、国際協力機構から資料 3-2 に基づいて説明。委員から以下の意見があった。

<宇宙基本計画工程表改訂に向けた重点事項（案）について>

- 2027年度までの衛星コンステレーションの構築は非常に重要であり、国内宇宙業界が総力を挙げて、スピード感を持って取り組んでいく必要がある。
- 宇宙状況把握等、米国と連携した運用が必要であり、調整を加速するべき。その際、日本側にもメリットのある協力となることと、セキュリティ対策にも留意が必要。また米国以外にも、アジアや中東など、多面的な国際連携の拡大も重要。
- 機能保証強化に係る取組である「宇宙システムの安定性強化に関する官民協議会」については、重要であり、より強調しても良いのではないか。
- 準天頂衛星 11 機体制に向けて、スピード感を持って取り組むとともに、官民で積極的にデータ利用を進めていくことが重要。
- ポスト ISS に向けては、まずは ISS の利用の可能性を徹底的に調べ、今後の日本としての関わり方を検討するためのベースとなる知識をつける必要がある。
- 月面開発に係るルールメイキングに対する、日本としての取組み方についても検討が必要ではないか。
- 宇宙業界全体として人材不足が課題。非宇宙業界の人材も含めて、国内の優秀な人材を宇宙業界に取り込むことが重要。また、若手人材の育成に当たっては、同時に就職先など、出口を確保することも必要。加えて、内閣府宇宙開発戦略推進事務局の体制強化も重要。
- 政府によるアンカーテナンシーを確保し、スタートアップを含む民間企業の事業展開に資する支援を行うことが必要。宇宙技術を始め、民間が持つ幅広いリソースを積極的に活用していくことが重要。
- 為替やインフレの影響で、探査機開発のコストが上がっている。探査機が開発できなくなれば、ミッションの遂行ができず、日本の宇宙開発に大きな打撃を与えることにもなるので、契約制度の見直し等を含め、対策が必要。
- 宇宙戦略基金について、1兆円でも足りないくらいだと思う。民間企業等プレイヤー同士の連携も意識しつつ、早期の有効活用を目指してほしい。
- 宇宙技術戦略のローリングに当たっては、各技術分野について、世界の情報をしっかり調査・分析した上で、戦略を立てられるよう、アカデミア等とも連携できる座組が必要。
- KPI の達成が第一目標にならないよう、他国の技術開発が先行しているものであっても、安全保障等の観点から重要な技術については国産化を図るなど、バランスを取って、戦略的に進めることが重要。

<「衛星測位に関する取組方針」の見直しについて>

- 準天頂衛星の利用拡大が必要。内閣府宇宙開発戦略推進事務局準天頂衛星システム戦略室の拡充等も必要ではないか。
- 準天頂衛星を活用したサービスの展開に当たっては、データプロテクションの仕組みも検討してほしい。

<我が国の宇宙機器・ソリューションビジネスの海外展開強化の考え方（案）につ

いて>

- 政府の役割として、民間との技術協力を行うのみではなく、今後はより具体的に、民間企業の市場開拓を支援していくことが重要。